

最後の卒業式

2023. 4. 4

まだ入学式も終わっていないのに、卒業式の話である。約1か月前になる。3月1日に、県立高等学校の卒業式があった。その高校にとって、この日が最後の卒業式となった学校がいくつかある。梁川高校もその一つである。

3月1日（水）16時25分に、野田中学校の会議が終わった。職員室から校長室に行こうとしたところ、ある人物が階段を上がってきた。その人を認識した途端に涙が浮かんできた。梁川高校第3学年主任のN先生である。N先生の話によるとこうだった。

前の日の2月28日の16時半頃に野田中学校に電話をした。男性が出てくれた。N先生は事務の先生だと思って話していた。「梁川高校のNと言いますが、申し訳ありません。実は、明日が卒業式で、終わった後に高澤校長先生にお会いしたいんです。それもサプライズにしたいんです」

すると、N先生が事務の先生だと思っていた教務主任のH先生は、すべてを察したように「わかりました。明日は会議があつて16時半ぐらいには終わると思います。駐車場でお待ちさせるのも申し訳ないので、会議が終わりましたら携帯に連絡しますので」

道理で、H先生がN先生と一緒に階段を上がってきたわけである。以前からの知り合いなのかと思ってしまった。この話をN先生から聞いて、教務主任のH先生の計らいに泣けてきた。

私が、梁川高校最後の年に、「今年の1年生が、梁川高校の最後の卒業生になります。その生徒たちの学年主任をぜひあなたにお願いします」そう言って最後の卒業生を託したのが、N先生である。私は、入学式で、最後の卒業生となった生徒たちの入学を許可したが、卒業を見届けることはできなかった。

そのN先生が、卒業式が終わりましたと休みをとって私に会いに来てくれたのである。N先生には、あなたからの電話をH先生がとってくれたことも縁だねと話した。まさか教務主任の先生だとは思っていなかったようである。

N先生は、一人一人の生徒の話をしてくれた。一気に記憶が蘇った。生徒の顔が浮かんできた。誰一人欠けることなく、全員の進学や就職などの進路も決まり、立派に卒業させてくれたのである。これは、普通のことのように思えるが、そう簡単なことではない。N先生をはじめ梁川高校の先生方の努力があつてこそその結果である。

梁川高校の校長室では、よくN先生といろいろな話をした。ときには一緒に涙した。N先生は、教育愛に溢れた方である。梁川高校の最後の卒業生たちには、N先生の思いや心が伝わっているはずである。

教育はやっぱり愛である。人の心が教育をつくる。N先生とH先生のおかげで、3月1日に、改めてその思いを強くすることができた。昨日の第1回職員会議において、「学校経営三か条」の一つめを「教育は人の心が決める」としたのは言うまでもない。